

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーションⅡ(CH)		(TCR213)
講義名（コード）	TCR_コミュニケーションⅡ_C		(TCR213C)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	中村 久子	時間数	30
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	2/3以上の出席		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 概要理解第2回 20日で合格N1
2	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 概要理解第4回 20日で合格N1
3	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。特に助詞の定着	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第1回 20日で合格N1
4	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第2回 20日で合格N1
5	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第3回 20日で合格N1
6	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。特に助詞の定着	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第4回 20日で合格N1
7	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第1回 20日で合格N1
8	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第2回 20日で合格N1
9		JLPT模試
10		JLPT模試 12/3JLPT
11	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。特に助詞の定着	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第3回 20日で合格N1
12	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第4回 20日で合格N1
13	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 総まとめ 20日で合格N1
14		後期期末試験
15		後期期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリルN1 聴解、20日で合格N1 どんなときどう使う文法練習帳
参考文献・資料等	
備考	クラスの状況に応じて進度を変えることがあります。